



昨年の 5 月に“通信の発行は不定期”と言って校長通信を書き出して 2 年目を迎えました。引き続き A 4 サイズ 1 枚で学校の様子などをお伝えできればと考えています。今回は、私のマイナス経験から高校生への願いをお伝えしたいと思います。

**皆** さん、本を読んでいますか？ 唐突な問いですが、私は、小・中・高校生時代に本をそれほど読んでいませんでした。読んでいたとしても自分の興味ある専門書でした。

小説や随筆などの本が好きで読んでいる人は、語彙力、創造性、表現力などがあると私は感じています。本の活字を見てシチュエーションなどを想像したり、登場人物に感情移入したり、読んでいるうちに言葉を覚えたりといった体験から身についてくるものだと思います。それに対して私は、文章を書いてみるとそういった力が不足していると痛感します。学生時代から作文が苦手でしたが、教員生活も 40 代半ばくらいから寄稿文を求められる機会が増え、当初より文章づくりも慣れましたが、今になって、「若い頃もっと本を読んでいたら…」と後悔しています。

そんな私に、昨年度の暮れに図書館司書の片倉さんから長野日報に掲載予定の「高校図書館発ブックリレー」の原稿依頼がありました。どんな本が高校生にとって良いのか悩んでいる中、手に取ったのが「生きのびるための『失敗』入門」(雨宮処凛著)でした。この著者が最も生きづらかった中学時代、いじめを受けていた頃、大人から自身のマイナスの経験を聞いたかったという思いから、失敗や挫折などの様々な経験をしている大人から話を聞いて書いています。私も自分のマイナスの経験から想いを伝えたいと考えるようになりました。

**読** 書は「体験」という考え方があります。実際、読書で登場人物に感情移入しているときの脳は、体験しているときの脳と近い動きをしているという話もあります。

しかし、ある程度のボリュームのある本を読もうと思ったら、時間を考えると躊躇したりします。そこで、私は、新聞のコラム(朝刊 1 面の下の方にある短文)を読むことをお勧めします。新聞各紙の朝刊 1 面に掲載されるコラムは、筆力に定評のあるベテラン記者が担当し「新聞の顔」といわれます。郷土色豊かな内容であり、時に世相を鋭く斬り、時には市井の出来事に温かなまなざしが注がれており、起承転結がしっかりしていて、短文から様々な文章表現も学べると思います。また、新聞の「論説」の要約に挑戦してみるのもいいと思います。継続することで読解力がつくはずですよ。



私が本を推薦する記事

